

## KVS 特別セミナー開催さる

2月7日、午後6時より母校大岡山キャンパス百年記念館フェライトホールに於いて、東工大、KVSの共同主催（K-BETS 後援）にて、農林水産省大臣官房・企画評価課長 末松 広行 氏を講師に招き、『バイオマスニッポン総合戦略とエネルギー政策』をテーマに講演会が行われた。

講演の要旨は；

- － CO2削減の為のみでなく、日本の農地を疲弊させない目的の為にもバイオフューエルの国内生産は望ましい
- － ブラジルでの砂糖黍原料のもの、米国での玉蜀黍・小麦原料のものなどは、食料とのバッティングもあり、好ましい原料とは思われない。日本では木質系などのセルロース系の原料からのエタノール生産技術を開発したいその他にも、非食料でのバイオマス原料候補も有り、今後の研究に期待
- － 取り敢えず、平成19年より、北海道で2箇所、計3万KL/年、新潟で、1箇所、1千KL/年のエタノール生産設備が、実験事業として、建設に着手された。北海道では、ETBEへの原料として、新潟は、ガソリンへの直接混入を考えている。
- － 輸入に関して言えば、WTOがらみで日本が義務付けられている量の米の輸入の問題、食料全体での国産率の問題などとの絡みも有り、例えば、技術指導を行って、東南アジア諸国の米の生産効率を上げ、此れを輸入に廻し、バイオエタノールの原料とするようなことも考えられる。何れにせよ、食料政策とも併せ、国として総合的な構想の下で、推進して行く要有り
- － 日本としては、バイオ燃料の生産目標値を2011年で、5万KL、2030年で、600万KLとしている。
- － バイオディーゼルとしての「廃食油」の利用拡大も、今後の大きな課題。現在の利用は、約4000KL、将来的には、40~50万KLの、回収・利用を目標としている
- － バイオマスの有効利用でのもう一つの大切な要素は、地産地消にある。この為にも、バイオマスタウン構想を、引続き、積極的に支援して行く



時機を得た演題で、講師の面白く解り易い話であった。質疑応答の時間を取った事もあり、六十名を超える出席者には充分満足して頂けた事と思われる。亦、末松氏は、講演会後に行われた、懇親会にもお付き合い下され、出席者と色々と意見を交換された。この場を借りて、改めて御礼申し上げたい。

尚、今回の講演会を後援した **K-BETS** は、正式には“蔵前ハイマズエネルギー技術ポータルネットワーク”と称し、“美しい地球を孫子の代まで”を合言葉に、工業会有志を中心に設立されたNPOです。興味とお時間のある方の参画を歓迎致します  
(文責：K-BETS 常務理事 森 茂生 -S37 化工)